

口頭発表 | [共通セッション] 橋と社会

■ 2025年9月12日(金) 13:00 ~ 14:20 ▶ 3階 C1 (熊本城ホール)

橋と社会

座長：山口 栄輝（九州工業大学）

13:40 ~ 13:50

[CS7-05] 教育活動を通じたインフラの理解促進活動－地域に愛される橋をめざして－（大学編）

*後藤 朋子¹、後藤 幹尚¹、藤森 純平¹、近藤 冬東¹、柴崎 琴未²、大森 蒼生²、浅田 美優²、田村 俊太²、中島 敏博²、酒百 宏一²、門馬 真帆³、平野 紗子³、岩波 光保⁴ (1. 大田区、2. 東京工科大学、3. (株)アイ・エス・エス、4. 東京科学大学)

キーワード：インフラ、公民連携、デザイン、地域に愛される橋、学園祭

インフラの急速な老朽化が懸念される中、持続可能な道路管理を実現していくためにはインフラの主たる利用者である区民に対して、インフラの抱える課題やその重要性について、現場を通じて情報発信あるいは広報活動を実践し続けていくことが大切である。

また、大田区では、超高齢社会の到来や個人の価値観の多様化など社会の複雑性が増す中で、変化に柔軟に対応し、持続可能なまちづくりを実現するため、公民連携による地域課題の解決をめざしている。

本稿では、大田区及び区内大学との連携によるインフラの理解促進活動について、その取組みを報告する。

教育活動を通じたインフラの理解促進活動－地域に愛される橋をめざして－（大学編）

大田区 正会員 ○後藤 朋子 正会員 後藤 幹尚 正会員 藤森 端平 正会員 近藤 冬東
 東京工科大学 非会員 大森 蒼生 非会員 柴崎 琴未 非会員 浅田 美優 非会員 田村 俊太
 非会員 中島 敏博 非会員 酒百 宏一
 (株)アイ・エス・エス 正会員 門馬 真帆 非会員 平野 綾子
 東京科学大学 正会員 岩波 光保

1. はじめに

わが国のインフラは高度経済成長期に集中的に整備され、今後急速に老朽化することが懸念されている¹⁾。大田区においては、管理している道路橋 156 橋のうち、約半数が昭和 40~50 年代に架橋されており、30 年後には 9 割以上の橋が建設から 50 年以上を経過することとなる。また、大田区の財政状況としては、少子化・超高齢社会の影響等により、社会保障関係経費は今後ますます増大する見通し²⁾となっていることから、インフラの老朽化対策として充当できる財源確保がより厳しくなっていくことが予測される。

このような状況の中、持続可能な道路管理を実現していくためにはインフラの主たる利用者である区民に対して、インフラの抱える課題やその重要性について、現場を通じて情報発信あるいは広報活動を実践し続けていくことが大切であると考える。本稿では、大田区及び区内大学との連携によるインフラの理解促進活動について、その取組みを報告する。

2. 大田区における公民連携

超高齢社会の到来、個人の価値観の多様化、加速度的に進展する情報化社会、さらには未曾有の災害がもたらす危機的状況など、社会の複雑性が増す中で地域課題解決はより一層困難さの度合いを高めている。大田区は、この変化に柔軟に対応し、持続可能なまちづくりを実現するため、民間企業等とも積極的に連携していくことにより、これまで培ってきた各種団体や学術機関等との連携・協働の仕組みとの相乗効果を生み出すことが求められている。

また、大田区は、図-1 に示すように、公民連携を推進することにより、「質の高い行政サービスの提供」、「地域の活性化」、「地域課題の解決」を実現し、区民（地域）、民間企業等、行政（区）のそれぞれにメリットがある「三方良し」の連携をめざしている³⁾。

公民連携の取組みの一つとして、大田区は学校法人片柳学園と包括連携協定を締結しており、片柳学園が運営する大田区蒲田にキャンパスを構える東京工科大学と日本工学院専門学校では、地域や企業と積極的に連携し、社会課題の解決に向けた実践的な学びを推進している。

3. インフラの理解促進活動の実践

(1) 大田区連携デザインプロジェクト

東京工科大学（デザイン学部）と大田区が行う「大田区連携デザインプロジェクト」は、地域が抱える課題をテーマに、学生たちがデザインを活用した解決策を提案するものである。この取組みは、2025（令和 7）年度から新カリキュラムの一環として正式に授業として開講される社会連携実習に活かされるものであり、2024（令和 6）年度は 8 月から全 16 回の日程のうち 4 回にわたって、区職員と学生との意見交換会が行われた。

地域や大田区と共に実社会の課題解決を目指し、3 つのテーマ（①地域に愛される橋づくり（図-2 にプロジェクトの対象とした橋梁位置図を示す。）-建設工事課、②男女共同参画を知つてもらおう-人権・男女平等推進課、③美しい集積所をめざして-清掃事業課・蒲田清掃事務所）に分かれて、プロジェクトに取り組んだ。初回のオリエンテーションでは、区職員から学生に向けて、担当課の業務内容、テーマの背景やプロジェクトに期待することについて情報提供を行った。中間発表では、図-3 に示すように学生から区職員へのプレゼンテーションが行われ、その後、学生と区職員との意見交換を通じて、テーマごとに解決策の提案に向けた方向性を確認した。地域

キーワード インフラ、公民連携、デザイン、地域に愛される橋、学園祭

連絡先 〒143-0015 東京都大田区大森西 1-12-1 大田区都市基盤整備部建設工事課 TEL03-6436-8725

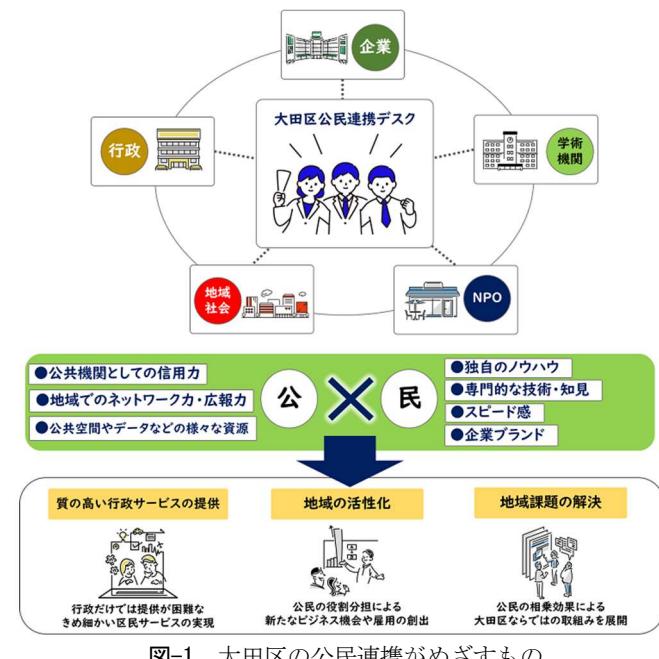


図-1 大田区の公民連携がめざすもの



図-2 東京工科大学と橋梁位置図

に愛される橋づくりプロジェクトでは、橋の魅力や維持管理の重要性を地域に発信し、橋の新たな価値を創造することを目指し、図-4に示すような地域の人々へのインタビューやフィールドワークを通じて、橋にまつわるエピソードや関心度について調査を実施した。最終成果報告会では、調査結果を踏まえて、そもそも愛される橋とは何かを考察し、“地域の人々の生活を支える心のよりどころ”であると定義づけ、2つのデザインによる課題解決策が提案された。図-5に示す『魚の足音』は、通学路の橋が夜は暗くて怖いという小中学生からの橋への要望や昔は魚がたくさんいて川に近づけたという地域の方々の想い出をもとに、呑川に生息する生き物をプロジェクトマッピングによって橋の歩道部に投影し、橋を渡る人々が生き物と共に橋を渡っているような体験ができるというものである。図-6に示す『未来への足跡』は、近隣商店街や小学生を対象に、地域の人々の足型を橋の装飾デザインに取り入れ、橋梁定期点検の時期に合わせ、廃棄野菜から作るカラフルなコンクリートによる足型のタイルを張り替えることにより、橋のシンボル化や地域の活性化につなげるものである。

蒲田の橋はすでに地域に愛されているが、日常にあまりに自然に溶けこむ「橋」への愛の形は表面に出づらく他者からの認識も難しいため、想い出として印象付ける必要があるという考え方から、いずれの提案も橋が地域に愛されていることを明確に可視化させ、地域全体で守っていくという意識やその継続により後世へ繋ぎ、地域とともに歩むという橋の新たな価値がデザインを通じて表現された。



図-5 提案①『魚の足音』

(2) かまた祭への出展

前述の東京工科大学と大田区との連携プロジェクトを契機として、2024(令和6)年度の東京工科大学蒲田キャンパス学園祭「かまた祭」へ大田区建設工事課としてブースを出展する機会をいただいた。出展テーマは、「みんなのくらしをささえる森」として、新しい島に移住し、新たな暮らし始まるとき、これからくらしをささえてくれるのは一体何かという問い合わせとともに、インフラの理解促進活動を実践した。出展ブース(図-7)においては、インフラそのものを支える企業等によるポスター展示⁴⁾、橋梁の3Dモデルを実際のスケールで見ることができるVR体験、インフラメンテナンスを題材とした紙芝居やカードゲーム、コンクリートストラップの製作など様々な体験を通じて、学生やその家族、親子連れなど幅広い年齢層へ向けてインフラの大切さや楽しさを発信する場となった。

4. おわりに

大学との連携プロジェクトを通じて、学生にとってはただの通りだと思われていた道路が初めて橋であると認識され、日常にあまりにも自然に溶け込むインフラへの気づきに繋がったと考える。今後も幅広い世代がインフラに対して興味関心を抱き共感できるような理解促進活動を実践していく。

参考文献 1) 国土交通省：社会資本の老朽化の現状と将来 - インフラメンテナンス情報 (mlit.go.jp), 2025年3月9日閲覧 2) 大田区：令和7年度予算編成、組織・職員定数の基本方針令和6年7月 (2_R7gaiyou.pdf), 2025年3月26日閲覧 3) 大田区：大田区公民連携基本指針令和4年1月版 (renkeikihonshin_2022.1ver.pdf), 2025年3月9日閲覧 4) 日本工学院・東京工科大学の学園祭「かまた祭」にポスター展示しました | 株式会社エイト日本技術開発, 2025年3月26日閲覧



図-3 プrezentation風景



図-4 地域へのインタビュー



図-6 提案②『未来への足跡』

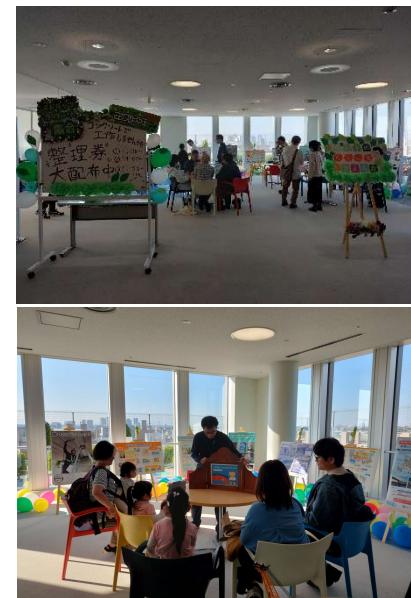


図-7 出展ブースの様子